

2019年度決算(案) 説明資料

相互会社としての使命	P1	保険料等収入の状況(2社合算)	P8
新型コロナウイルス感染症への対応	P2	資産運用の状況(富国生命単体)	P9
100周年に向けて	P3	基礎利益・経常利益の状況	P10
経営の差別化の歴史	P4	健全性の状況	P11
2019年度決算(案)のポイント	P5	オンバランスの自己資本強化と継続的なリスク・マネジメント	P12
保険業績の状況(2社合算)	P6 ~ P7	2019年度決算の社員配当金案	P13

2020年5月22日

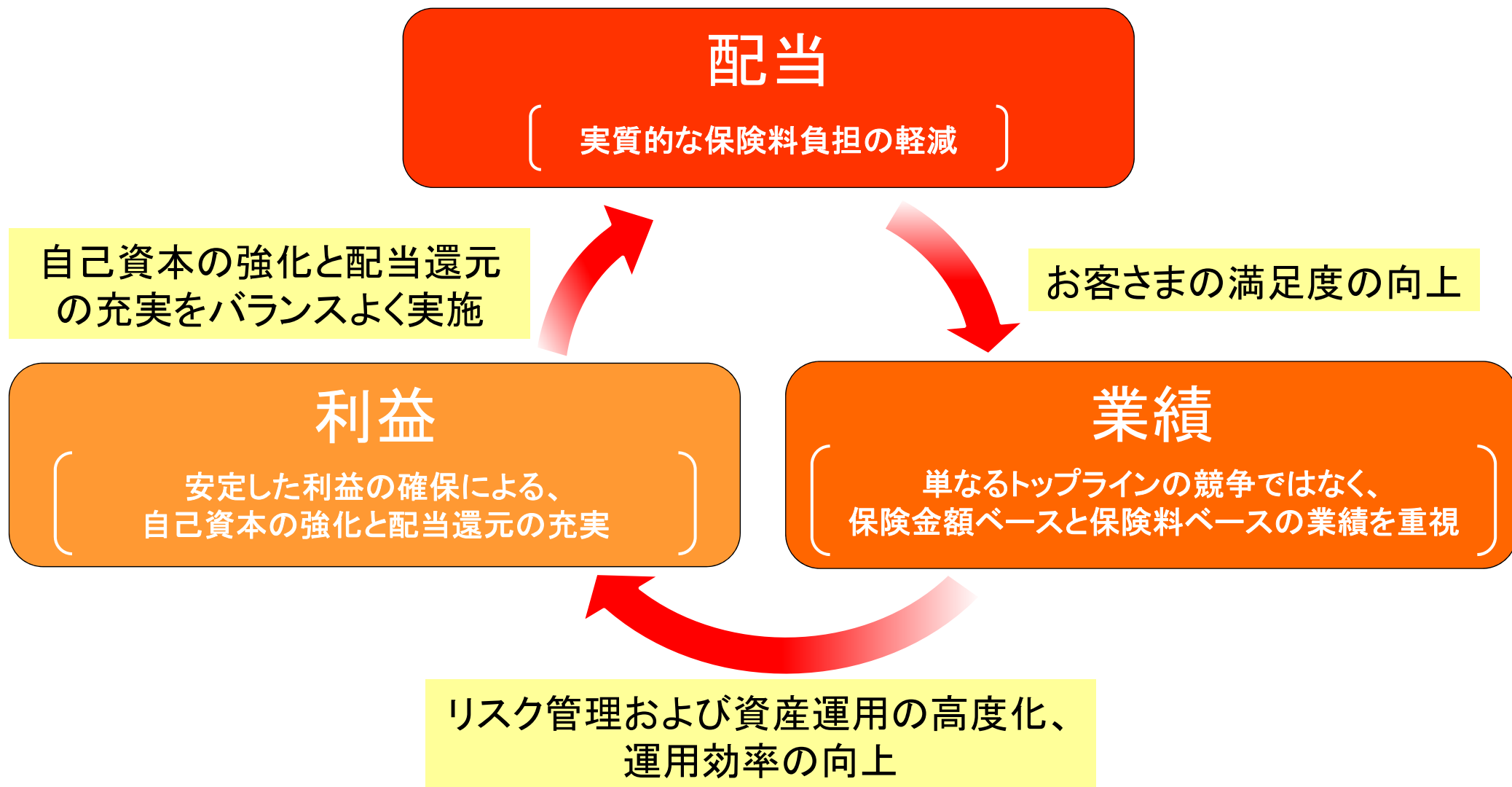
富国生命保険相互会社



すてきな未来応援します

フコク生命

相互会社としての使命



安定した利益を確保し、配当還元の充実を通じてご契約者の実質的な保険料負担の軽減を図ることが相互会社としての使命であり、保険会社としていかなる時にも保険金等を確実にお支払いすることが最も重要な責務であると考え、実践しております。

新型コロナウイルス感染症への対応

コーポレートメッセージ(当社HP掲載)

ご契約者の皆さまへ

いま、私たちは、これまで経験したことのない不安を感じています。新型コロナウイルスは、私たちの知らないうちに身近なところまで広まっており、私たちの生活、仕事、学校、そして社会全体を脅かしています。さらに、私たちの最も大切なもの、つまり、私たち自身の健康や大切な家族の健康をも脅かそうとしています。

生命保険は、お客さまの一生にわたる、さらには世代を超えるお約束であり、終わりのない仕事です。いかなるときでも、保障を通じてお客さまにご安心をお届けする事業です。ご契約者本位という想いのもと、1923年に相互会社として創業した富国生命は、お客さまとその大切なご家族を最優先に考えてまいりました。大災害や経済環境の激変にも見舞われましたが、相互扶助の精神のもと、お客さまにお約束した保険金等を確実にお支払いするという揺るぎない信念を持って、しっかりとお客さまに寄り添い乗り越えてまいりました。

創業以来、相互会社形態を貫く富国生命は、株主がないため、お客さまの利益を守ることを考え、過度な成長ではなく、お客さまを守るための成長を追求してきました。こうした企業としてのあり方が、信頼へとつながり、お客さまに安心していただくことができるものと考えます。

富国生命では、お客さまにご不便をおかけすることのないよう十分に留意しながら、職員の健康と安全を守るため、在宅勤務や国内外の出張の自粛、大規模な会議の休止などの対策を実施しております。お客さまにおかれましては、ご心配の点がございましたら、ご遠慮なく最寄りの支社やお客さまセンターにお問合わせください。新型コロナウイルスとの闘いは、長く辛いものになるかもしれませんが、決して孤独な闘いではありません。富国生命は、しっかりとお客さまに寄り添ってまいります。

富国生命保険相互会社
代表取締役社長
米山好映

当社の考え方

基本原則

- ①お客さまおよび職員の命を最優先に考えること
- ②われわれの事業活動により、感染者が増えていくことは絶対に回避すること

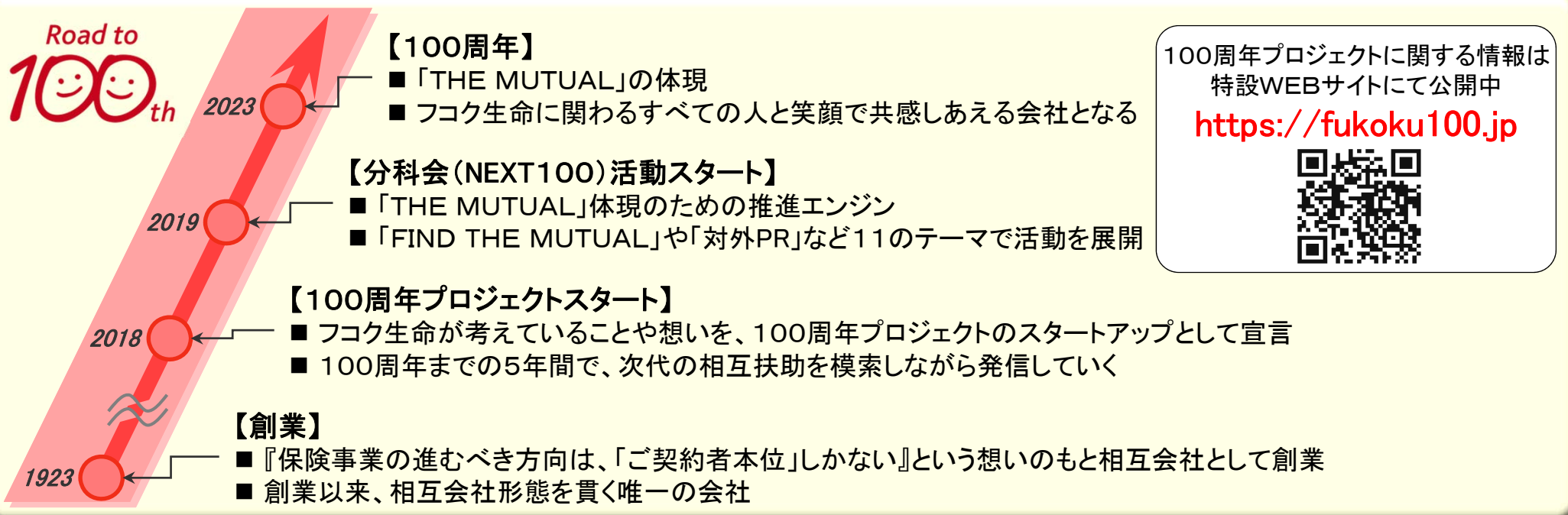
- 長期化や第2波に備えて万全の体制で臨む
- マーケットの混乱などにも十分に耐えられる強固な健全性を確保できている
- Face to Faceの活動とIT活用の両立という新しい課題に取り組む
- 相互扶助の精神のもと、しっかりとお客さまに寄り添い、未来永劫お客さまとの約束を守っていく

THE MUTUAL

次代の“相互扶助”を考える

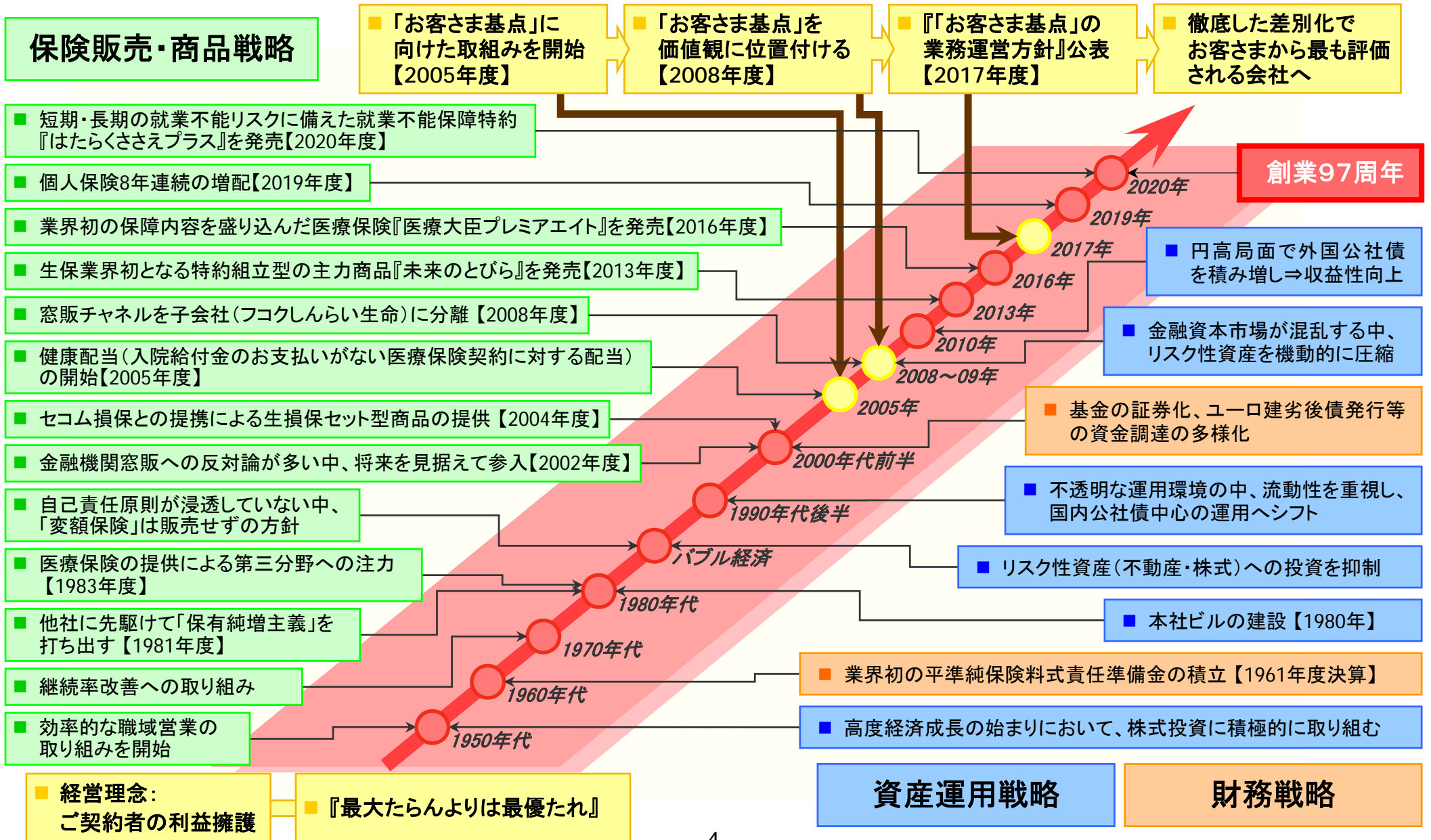
「THE MUTUAL」(ザ・ミューチュアル)とは
次の100年に向け進化する次代の“相互扶助”のこと
そして、フコク生命に関わるすべての人のつながりを深め支えあい
真の“相互扶助”を体現する組織を目指すフコク生命の決意

【創業から100周年に向けて】



経営の差別化の歴史

自主独立路線のもと、経営の差別化を図る



2019年度決算(案)のポイント

新契約高・新契約年換算保険料は2年連続増加

- ◆ 富国生命、フコクしんらい生命合算の新契約高は前年度比1.9%増加の1兆6,688億円、新契約年換算保険料は、前年度比15.6%増加の206億円
- ◆ 2社合算の保険料等収入については、前年度比9.1%増加の6,299億円

第三分野の保有契約年換算保険料は16年連続増加

- ◆ 2社合算の保有契約年換算保険料は減少となったものの、第三分野については、前年度末比1.4%増加の1,153億円と、開示以来16年連続で増加

基礎利益は減少

- ◆ 2社合算の基礎利益は826億円
- ◆ 団体保険の料率引下げや営業職員数増加にともなう費用増が押し下げ要因となったものの、富国生命単体の利息及び配当金等収入が過去最高を更新するなど利差益が想定を上回り、前年度比9.5%減少にとどまる

引き続き高い健全性を維持

- ◆ 連結ソルベンシー・マージン比率は、前年度末比95.3ポイント上昇の1,331.7%となり、引き続き高い水準を維持

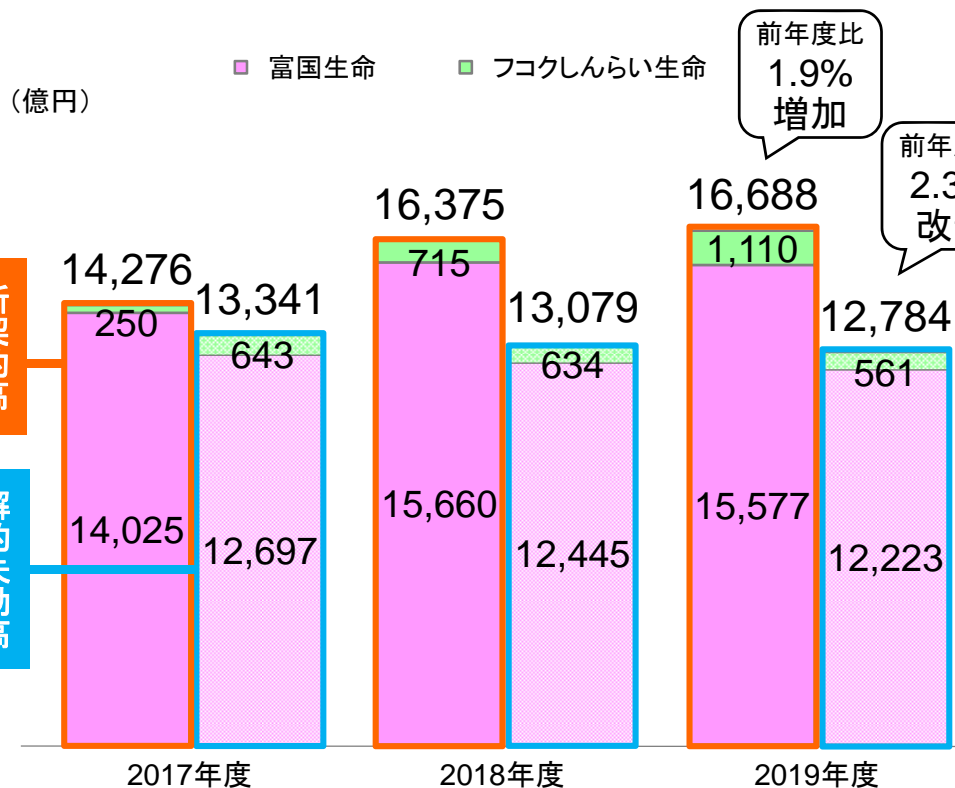
個人保険は8年連続増配

- ◆ 2005年度決算から実施している入院給付金のお支払がない医療保険契約に対する健康配当を増配
- ◆ 満期時の特別配当の対象を入院給付金のお支払がないまま満期を迎える医療保険契約にも拡大
- ◆ 新型コロナウイルスの感染拡大によりご契約者の家計が影響を受けるなか、増配により実質的な保険料負担を軽減

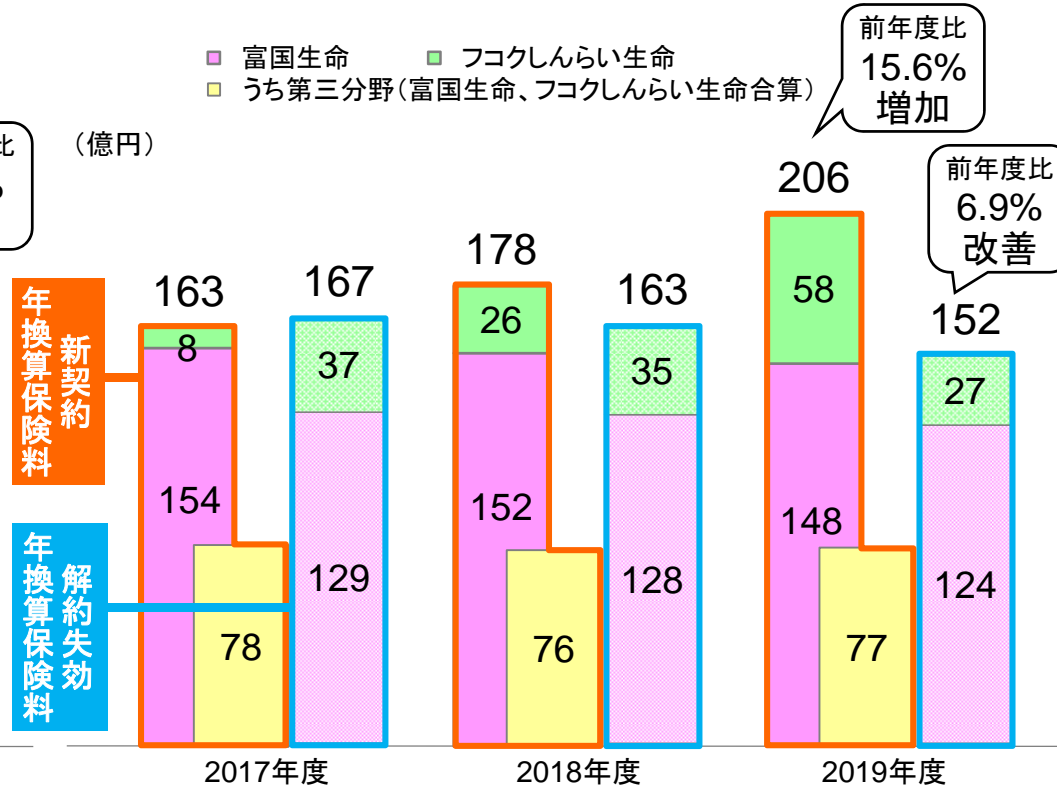
保険業績の状況(2社合算) ～新契約・解約失効～

※個人保険と個人年金の合計

新契約高・解約失効高の推移 (富国生命、フコクしんらい生命合算)



新契約・解約失効年換算保険料の推移 (富国生命、フコクしんらい生命合算)



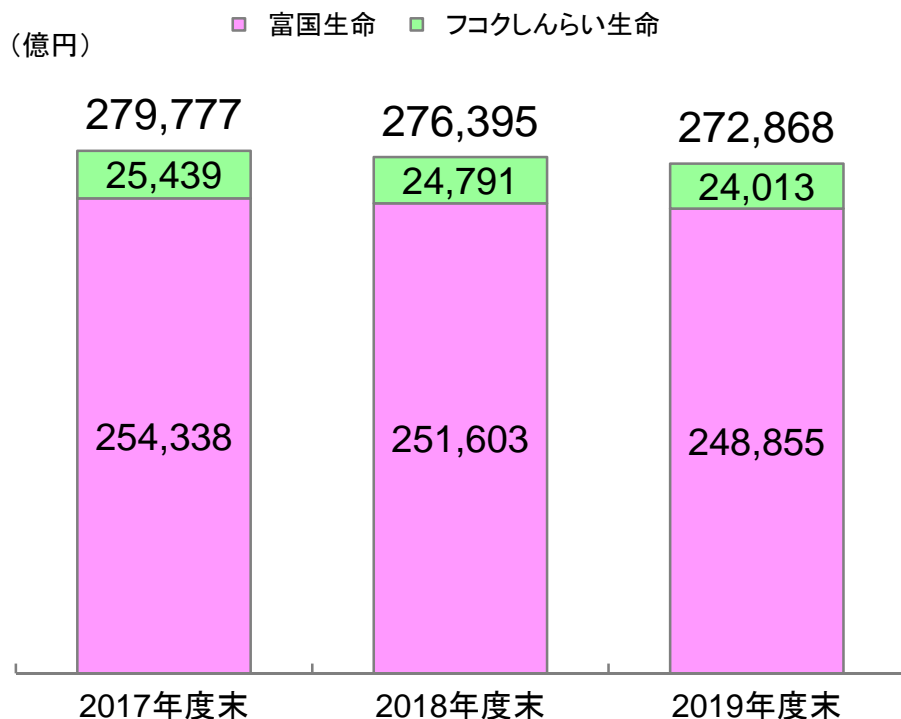
- 新契約高は富国生命の主力商品が前年度と同水準となったことに加え、フコクしんらい生命の一時払商品が増加したことから前年度比1.9%増加
- 解約失効高は前年度比2.3%減少

- 新契約年換算保険料は前年度比15.6%増加
- 解約失効年換算保険料は前年度比6.9%減少と、引き続き改善

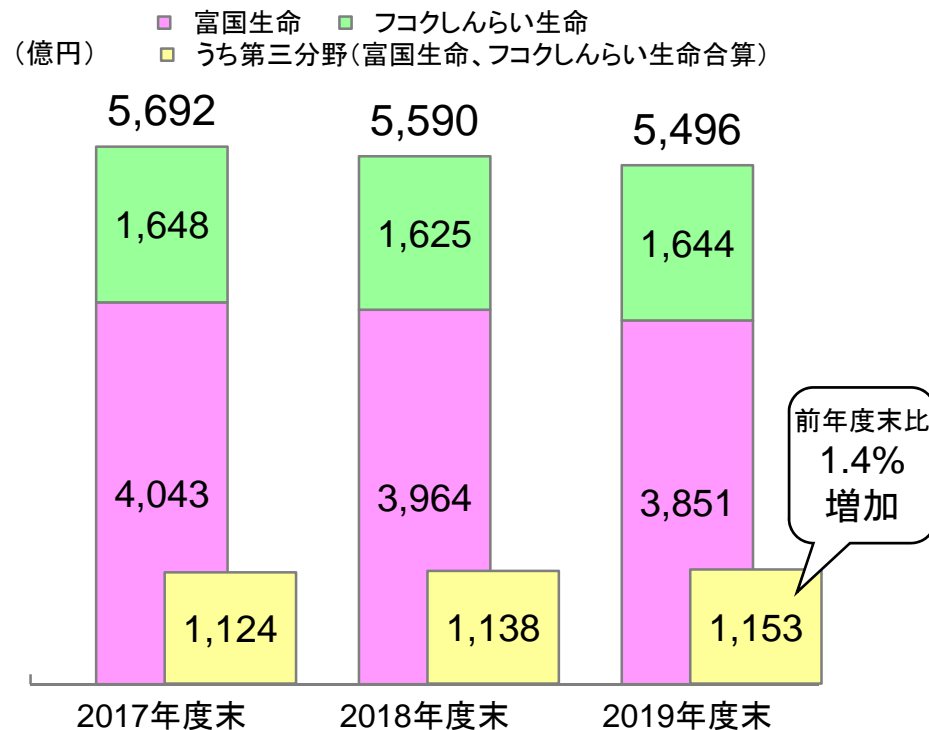
保険業績の状況(2社合算) ~保有契約~

※個人保険と個人年金の合計

保有契約高の推移 (富国生命、フコクしんらい生命合算)



保有契約年換算保険料の推移 (富国生命、フコクしんらい生命合算)



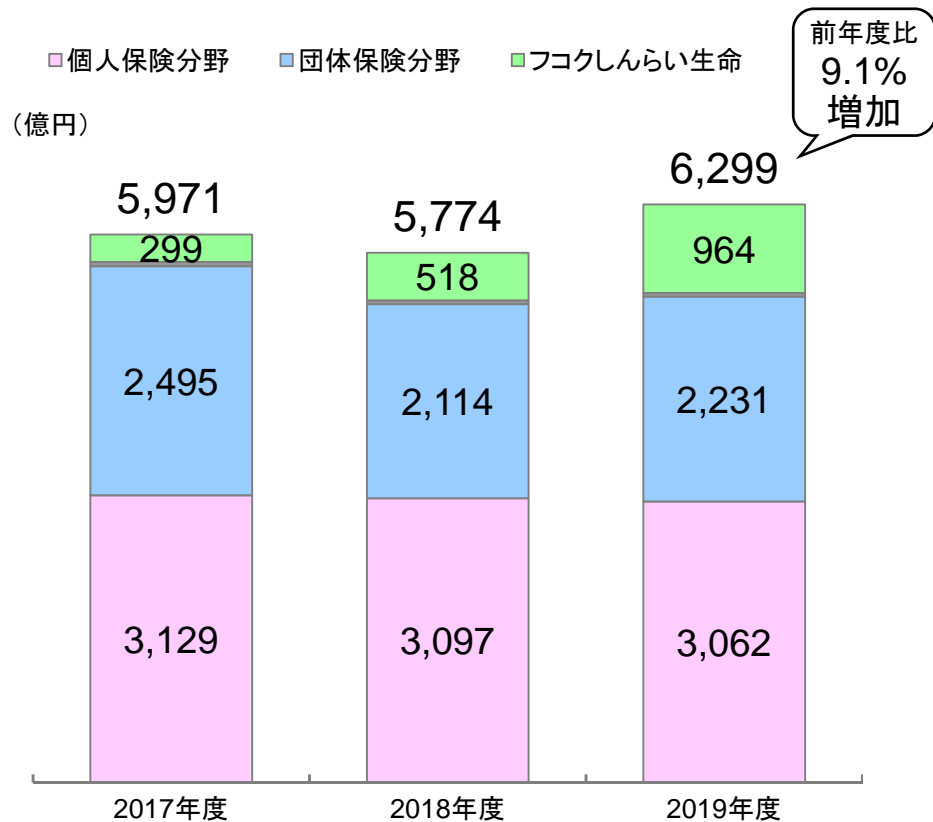
- 保有契約高は前年度末比1.3%減少
- 保有契約高の反転増加に向けて引き続き取り組む

- 保有契約年換算保険料は、前年度末比1.7%減少、うちフコクしんらい生命は前年度末比1.2%増加
- 第三分野の保有契約年換算保険料は前年度末比1.4%増加の1,153億円

保険料等収入の状況(2社合算)

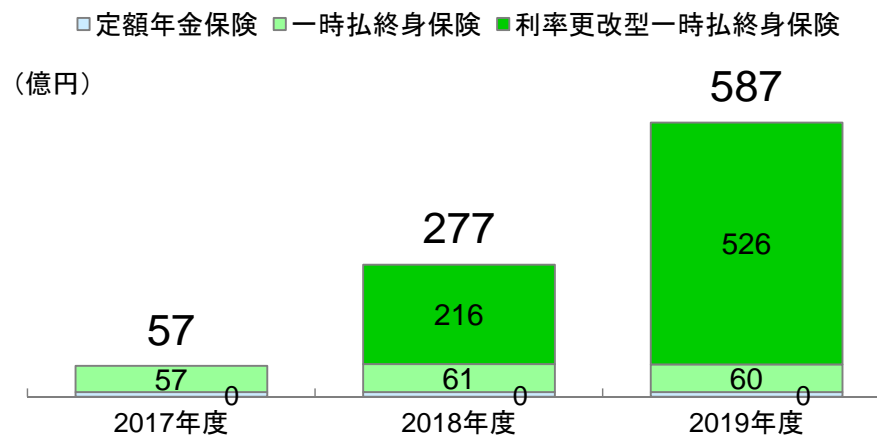
～保険料等収入・金融機関窓販～

保険料等収入の推移
(富国生命、フコクしんらい生命合算)

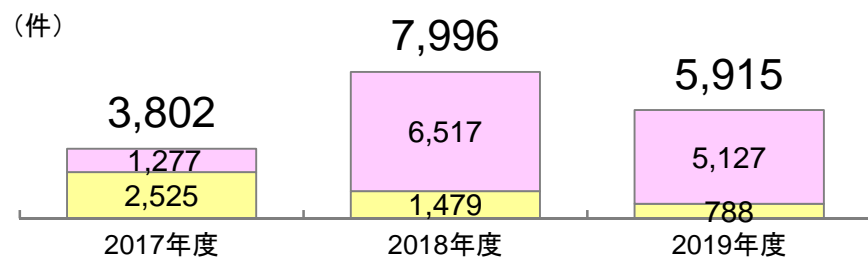


金融機関による保険販売の状況
(フコクしんらい生命)

【貯蓄性商品の販売実績(初回保険料ベース)】



【保障性商品販売件数】

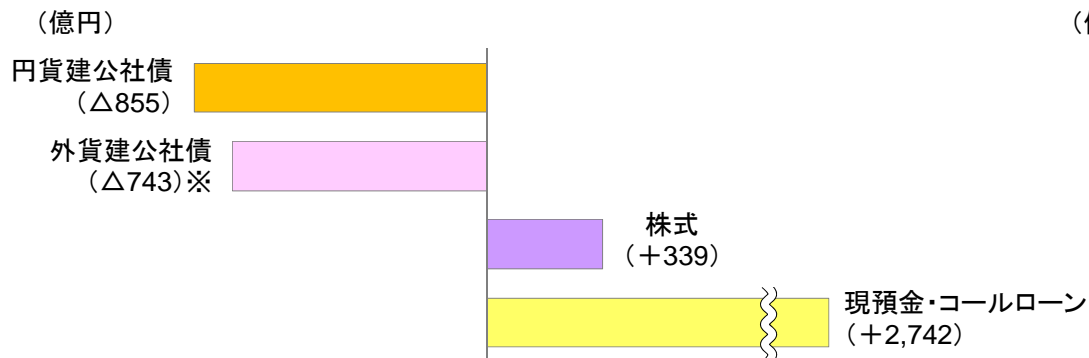


- 保険料等収入は前年度比9.1%増加
- 富国生命は団体年金保険の増加により、フコクしんらい生命は一時払終身保険の増加により、2社ともに増加

- 2018年10月に発売した「利率更改型一時払終身保険」により、貯蓄性商品の販売実績は大きく伸展
- 保障性商品の販売件数は前年度比減少

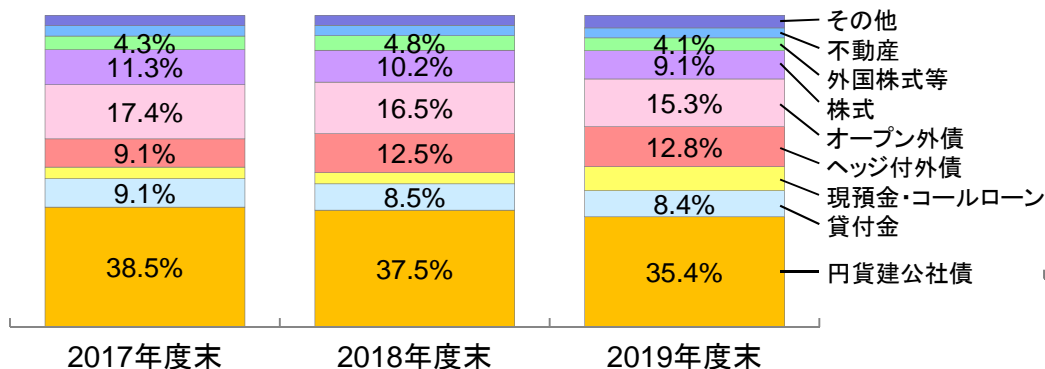
資産運用の状況(富国生命単体)

主な運用資産の帳簿価額残高の増減額

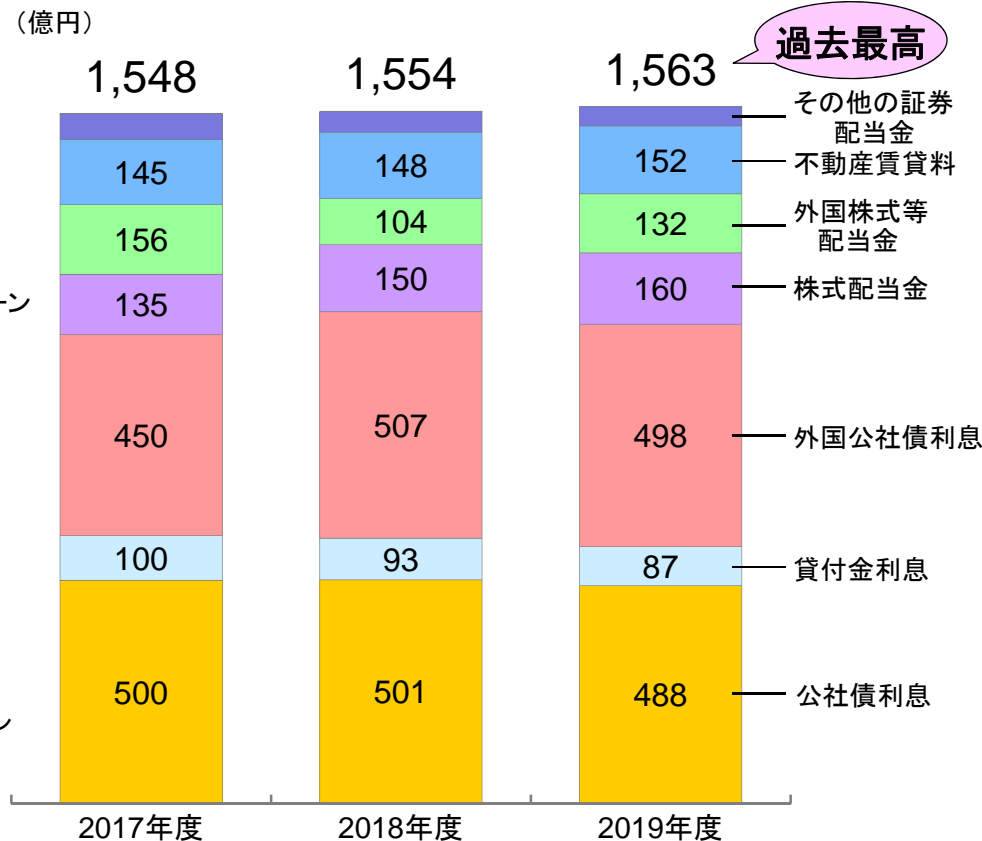


※ 損益計算書に計上した外貨建公社債の評価損益・為替換算損益を控除したもの

一般勘定資産の資産構成比(BSベース)



利息及び配当金等収入※の状況

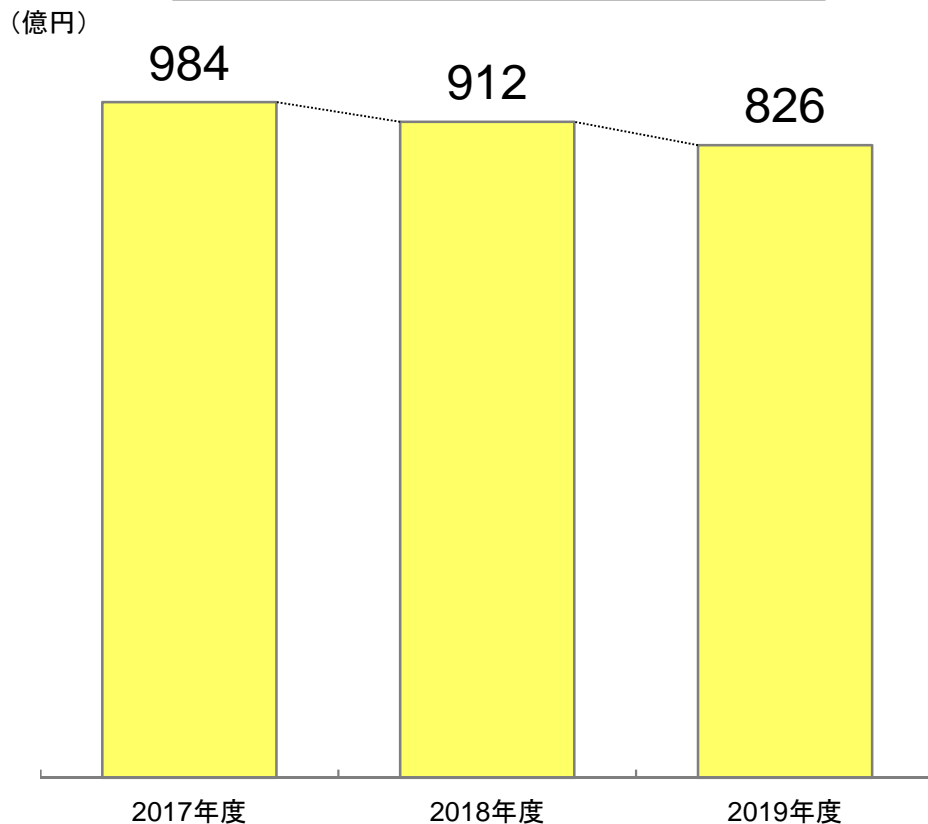


※売買目的有価証券運用益(損)に含まれる利息及び配当金等収入を含む

- 世界的に長期金利が低位で推移したことから、内外の公社債への投資を抑制し、株価の下落局面では、安定した配当が見込める株式を、リスクを適切にコントロールしつつ積増し
- 金融資本市場の変動率が高まった年度終盤には、含み益が大幅に増加した内外の国債を一部売却する一方、割安と判断した内外の社債を購入するなど機動的な資産運用を実践
- 利息及び配当金等収入は、残高を積み増した株式の配当金増加などが寄与し、2年連続で過去最高を更新

基礎利益・経常利益の状況

基礎利益の推移
(富国生命、フコクしんらい生命合算)



- 基礎利益は前年度比9.5%減少
- 富国生命単体の利息及び配当金等収入が過去最高を更新するなど利差益が増加した一方で、団体保険の料率引下げや営業職員数増加にともなう費用増などが減少の主な要因

経常利益・当期純剰余の推移
(富国生命単体)

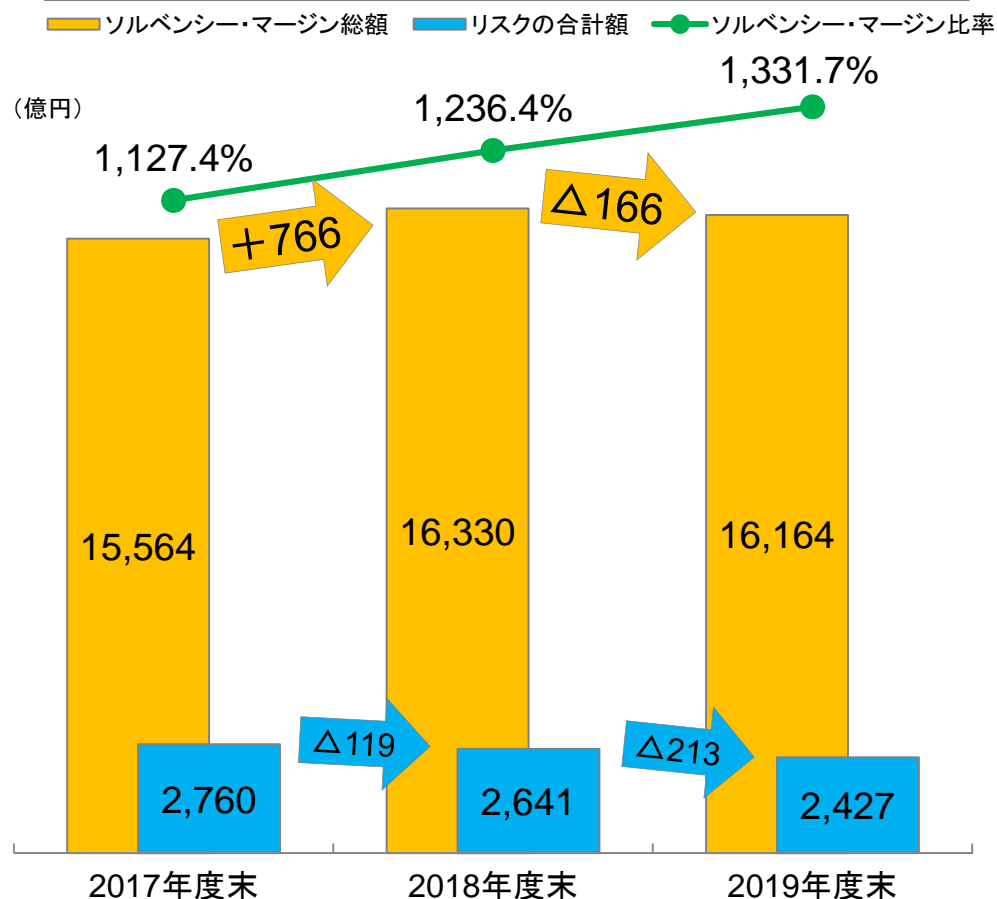
(単位:億円)

	2018年度	2019年度
基礎利益	912	834
保険関係損益	579	475
利差	333	359
キャピタル損益	△ 46	4
臨時損益	△ 333	△ 350
経常利益	533	488
当期純剰余	368	341

- キャピタル損益は有価証券売却益の増加などにより、前年度比50億円増加
- 臨時損益には危険準備金や追加責任準備金といった内部留保の積増額を計上
- 経常利益は前年度比8.3%減少の488億円

健全性の状況

ソルベンシー・マージン比率の推移(連結)



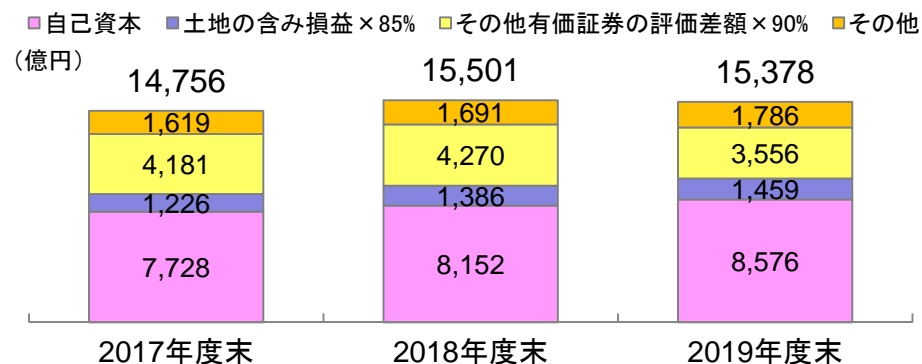
- 連結ソルベンシー・マージン比率は、前年度末から95.3ポイント上昇し、1,331.7%と引き続き高い水準を維持

ソルベンシー・マージン比率の推移(単体)

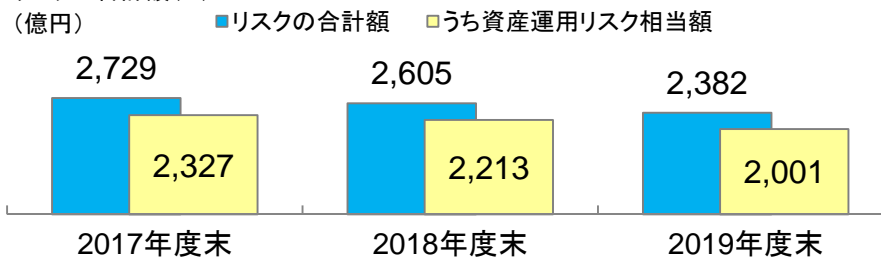
■ ソルベンシー・マージン比率

項目	2017年度末	2018年度末	2019年度末
ソルベンシー・マージン比率	1,081.2%	1,189.7%	1,290.8%
計算式	$\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$		

■ ソルベンシー・マージン総額(A)



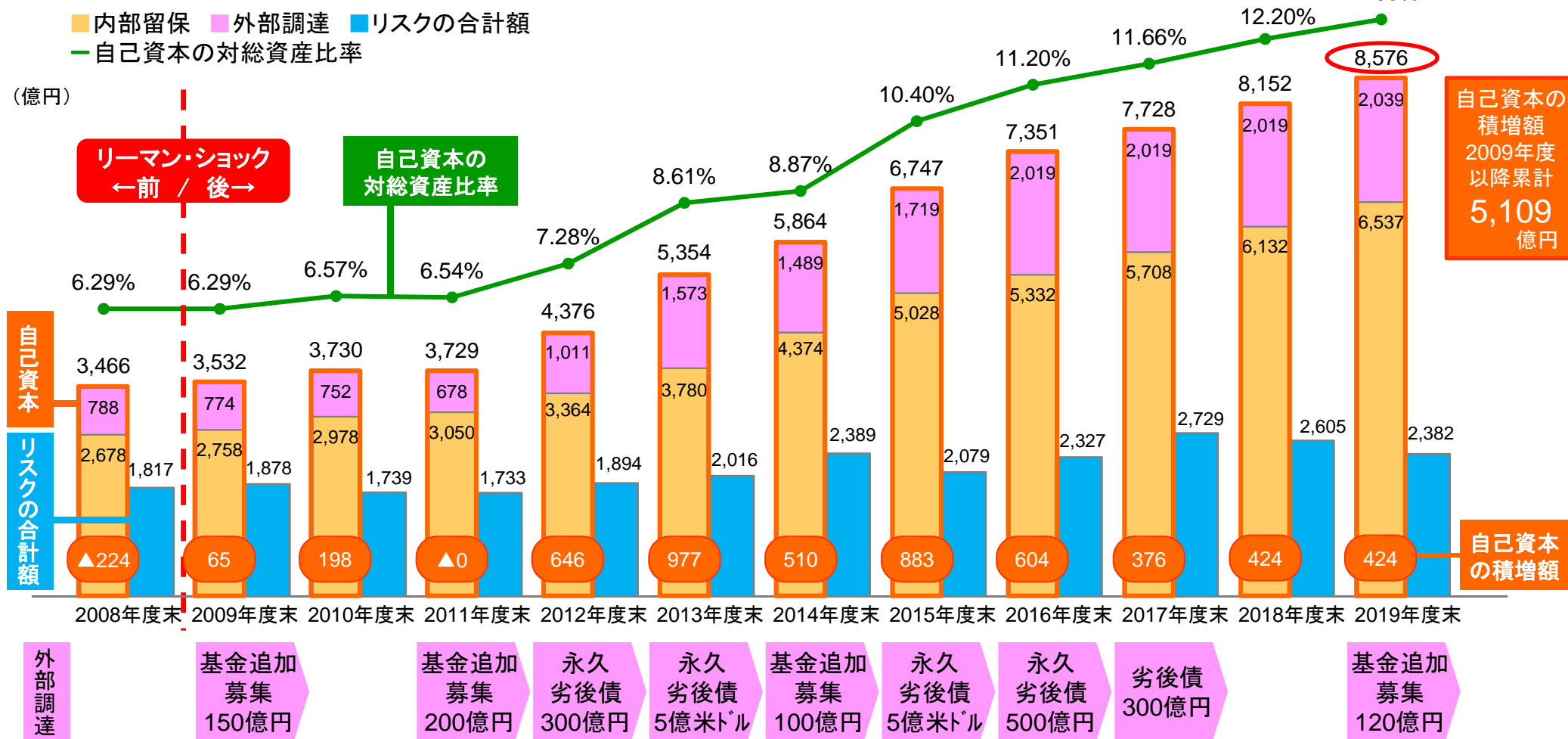
■ リスクの合計額(B)



- マージン総額が有価証券の含み益の減少や内部留保の積増しなどにより概ね横ばいとなった一方で、リスクの合計額が為替ヘッジ比率の引き上げなどにより減少し、前年度末から101.1ポイント上昇の1,290.8%

オンバランスの自己資本強化と継続的なリスク・マネジメント(富国生命単体)

【自己資本比率の長期推移および内訳】



- 経常益による内部留保の積上げを第一義とし、適時、外部調達を行うことで自己資本を強化
- 2019年度においては、基金120億円の追加募集など424億円の自己資本を積増し
- ERMを着実に進め、保険金等の確実なお支払いと配当還元の充実を通じ、ご契約者に安心・満足を提供

2019年度決算の社員配当金案

■ 個人保険・個人年金保険

- 個人保険について8年連続の増配。
- 健康で給付金のお支払いがなかったご契約者の配当に対する期待に応えるため、2005年度決算から医療保険契約に対して実施している健康配当を増配する。さらに2014年度決算において復活させた満期時の特別配当について、これまでの死亡保障契約に加え、入院給付金のお支払いがないまま満期を迎える医療保険契約も新たに対象とする。
- 新型コロナウイルスの感染拡大によりご契約者の家計が影響を受けるなかで、増配により実質的な保険料負担を軽減し配当に対するご期待に応える。
- 医療保険の配当総額は本増配により3億円増加して36億円。増配対象は106万件。
入院給付金のお支払いがないまま満期を迎える医療保険契約の場合、配当金は平均すると1件当たり22,000円程度。

■ 例1 医療パック定期付新積立型介護保険

[医療保険について満期まで入院給付金のお支払いがない契約の場合]

40歳加入、男性、10年更新型、口座振替月払

- ① 定期付新積立型介護保険(5年ごと利差配当)
死亡保険金3,000万円+新積立型介護保険の死亡給付金
介護保険金50万円
- ② 医療大臣プレミアム(5年ごと配当)
入院日額6千円

加入年度 (経過年数)	月払保険料	2020年度の受取配当金案 [増配額]	保険料に対する 配当金の割合*
2010年度(10年)	14,402円	89,718円 [6,331円]	8.1%
うち医療保険	2,568円	17,955円 [6,331円]	6.3%

※保険期間(10年)を通じた保険料の払込総額に対する配当金総額の割合

■ 例2 医療パック定期付新積立型介護保険

[医療保険について満期まで入院給付金のお支払いがない契約の場合]

40歳加入、男性、15年更新型、口座振替月払

- ① 定期付積立型介護保険(5年ごと利差配当)
死亡保険金2,900万円+新積立型介護保険の死亡給付金
介護保険金100万円
- ② 医療大臣(5年ごと利差配当)
入院日額6千円、120日型、無事故給付金あり

加入年度 (経過年数)	月払保険料	2020年度の受取配当金案 [増配額]	保険料に対する 配当金の割合*
2005年度(15年)	17,642円	163,855円 [17,667円]	10.2%
うち医療保険	3,114円	29,973円 [17,667円]	7.1%

※保険期間(15年)を通じた保険料の払込総額に対する配当金総額の割合

相互会社である当社は、今後とも強固な財務基盤を維持しながら、配当還元の充実を通じてお客さまの実質的な保険料負担の軽減をさらに進める。